



鶉鮎つうしん



岐阜ダルクニュースレター令和2年冬号(78号)

自分の体験が役に立つ

施設長 遠山香



いよいよ師走を迎え、街がイルミネーションに彩られる季節となりました。

コロナ禍で講演活動や演劇発表など様々な活動が中止になりましたが、10月頃から地域での講演活動ができるようになり、ほっとしたのも束の間、ウイルス感染者数が全国でまた急増しているため、感染拡大に徹底して注意を払っていかねばならない状況になってしまいました。

講演活動では、リハビリ中の仲間を同行し体験談を話してもらいました。このような活動は、薬物依存症に陥ったありのままの体験が社会で生かされる機会となるため、当事者の自己肯定感が上がります。過去に私も、薬物依存症である自分のことを隠して生きていた頃、名古屋ダルクの学校講演に何度か連れて行ってもらい、体験談を話す機会を与えてもらいました。自分の体験が社会の役に立つ事ができることをとてもうれしく思ったものです。

講演に行った際に、各務原ダルクへの活動募金のお願いをさせてもらい、多くの方からご支援をいただき感謝の気持ちでいっぱいになりました。体験談を話した仲間達も、たくさんの方々が薬物依存者の回復を支えてくれることを実感したと思います。

各務原ダルク設立の計画ですが、幸い物件も見つかり来年早々には開設できるようリフォームを進めているところです。

開設準備フォーラムはコロナ禍の影響で断念しましたが、設立フォーラムを来年の3月までに開催したいと思います。3密の配慮や工夫をして開催する予定を立てています。

今年もたくさん皆様に岐阜ダルクの活動を支えていただきありがとうございました。

これからも、祈って最善を尽くして活動を続けていきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。

仲間の体験談

てっちゃん

私がダルクに入所して一年が経ちました。毎日ミーティングで自分の事を話しているうちに、どんどん自分の事が分かって来ました。仲間との共同生活の中で日々芽生える負の感情(妬み、恨み、怒り、不安、悲しみ)をミーティングで言語化すると、心の膿がでるようでした。私は社会の中で極端に「優越感」を欲していて、それが阻害されると強くマイナスの感情が出る傾向があることに気づきました。

私はゲイです。長年に渡り心の奥底でゲイは卑しくて恥ずかしい存在だと非難してきました。そういう自己否定感が自分より下に人を作る(他人を非難したり攻撃する)ことで優越感を保ちバランスをとろうとしているのだということまで分かってきました。

ある日、施設からの提案で「ホームレスを襲撃する子供の問題セミナー」という講演会に出席させていただきました。目から鱗でした。不完全な自分を認められず、弱者をイジメて自己尊重感情を満たす子供達の姿は、あるがままの自分を受け入れられない過去の自分と同じでした。

最近、施設からの提案でボランティアの仕事を始めました。当初私はこのボランティアを通じて私に足りない何か徳の高い能力を身につけねばと息込んでいました。しかし何日やっても答えは見つかりません。ある日私はベテランボランティアさんに尋ねました。「何故、ボランティアを長年やってるんですか」と。「ただ頼まれて私にできることを出来る範囲でやってるだけですよ」という実に謙虚な答えがありました。

今のままの自分に出来ることがある、そしてそれをやる機会が与えられ、それが人の助けになっている。そんな喜びに感謝する謙虚さを無くしてしまいました。私は今の自分に満足し感謝します。



しょう

「アルコールが、生きていく上での必要不可欠な精神安定剤だ」—そう思って飲み続けていた。自分の生き辛さをアルコールを飲む事で、解消できると思っていた。

物心ついた頃から、他人と話す事が苦手だった。常に人の目を気にして恐がり、怒られたり、嫌われたりする事がとても恐ろしく感じた。それは、家族との関係や自分のセクシャリティに起因していると思う。

Xジェンダーという特殊な性別が、人と壁を作っていた。他の人に理解されない、どう接していいか分からない。大学の3年頃から、飲まない人と会話が出来ないと思うようになっていった。この頃から、特に男である日と女である日—Xジェンダーの性質—に違和感を覚えていた。女なのに、体が男である気持ち悪さ。こういった現実を忘れるために、飲み続けた。お金がなければ、家からはお金を盗み、消費者金融に手を出し、それでも酒を買うお金が必要なら、家の物を持ち出して売ったりした。その頃は、こういったセクシャリティに産んだ親も、理解のない世間も、神がいるなら、それすら恨んだ。どれだけ飲んでも、かえって後悔と罪悪感が出てきて、それを打ち消すために飲んでの繰り返しで、生きるのが苦痛となり、自殺を図った。

ダルクに入所したきっかけは、あるXジェンダーが集まるイベントに参加したからだ。そのイベントの主催者が、Xジェンダーである事を公表しつつ仕事をしていた。その時、自らも希望がある気がして、やり直そうと思って入所した。施設では、毎日朝と夜に、自分の話を正直に話し、過去の自分と向き合い、同じことをしない様にプログラムを進めていく。今は、正直に全てを話す事がめらわれる事もあるが、仲間が上手く回復していくのを見て、真似をして回復できるよう努力している。



岐阜ダルクとの関わりから

笠松刑務所 教育専門官 はるか

岐阜県的女子刑務所である笠松刑務所で薬物依存離脱指導等の教育に携わっている教育専門官の「はるか」と申します。笠松刑務所では、薬物依存離脱指導や窃盗防止教育、アルコール依存回復プログラム等、様々な指導をしており、中には担当者もニックネームを付して参加するミーティングがあります。そのときに私が使用しているニックネームが「はるか」であり、今回、せっかくの機会なのでこのニックネームを使わせていただくことにしました。

さて、岐阜ダルクと笠松刑務所の関わりは平成17年からで、薬物乱用防止教育、現在は薬物依存離脱指導のグループミーティングの中で、ダルクについての情報提供をしていただき、体験談をお話いただいています。遠山さんや勇さんからのメッセージは、当事者の方だからこそできるお話ばかりで、グループの中では共感の空気が流れたり、回復への希望や新しい気づきをいただけたりと様々です。だからこそ、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため緊急事態宣言が出されたとき、岐阜ダルクを含め外部講師の方々にお越しいただくことができなくなり、今後どうなるのかと先の見えない不安が脳裏に浮かんだこともありました。普段から、岐阜ダルクの協力が無ければ当所の薬物依存離脱指導のグループミーティングは成り立たないとさえ感じていますが、そうした思いを一層強くした期間でもありました。

また、指導のグループミーティング以外でも、私は、ダルクのミーティングの効果に触れた一人でもあります。かつて、前担当者と一緒に岐阜ダルクを見学させていただく機会があり、岐阜ダルクのミーティングに参加させていただくことができました。私が話した内容は、冷静に考えれば些細なことだと分かるのですが、人間関係の中で起こったことのうち、どうしても私自身が重く捉えすぎていて、十代の頃からずっと後悔をして、苦しんでいた事柄でした。それまで私はそのことを誰にも言えませんでした。言えないまま、事あるごとに頭の中でその場面を思い出し、自分を責めていました。ですが、ミーティングの雰囲気がかっと背中を押してくれたのだと思います。話してみると、不思議なことに、癒された自分がいました。正直に話をすること、そのありのままを否定せず聞いてもらえること、笑ってもらえること…そんなミーティングから、自分の考え方やこれまで抱えていた感情を見つめることができるようになり、心に落ち着きを得ることにつながるのだと実感しました。また、安全な場所で人に正直な話をする大切さや、人とのつながりの大切さを改めて感じる機会ともなりました。

ありのままの自分でいられる場所、受け入れてくれる仲間がいる場所の一つがダルクだと思います。「薬物依存からの回復」を考えたとき、刑務所の中でできることは、社会に比べると多くないのかもしれませんが、ですが、「薬物のない人生を生きたい」と思う人達の力に、ほんの少しでもなれるように、これからも、岐阜ダルクの方々にご協力いただきながら笠松刑務所での薬物依存離脱指導を実施していきたいと思っています。



岐阜ダルク 活動報告 (2020年9月24日~12月3日)

9月

- 24日 名古屋地方裁判所情状証拠人出廷
ヨーガプログラム
- 25日 保護観察所における薬物乱用防止プログラム・ステップアッププログラム
(以下 ステップアッププログラム)
陶芸プログラム
フラワーセラピー
- 26日 薬物電話相談日
- 27日 岐阜ダルク家族会
カトリック宮教会にて活動紹介
ステップアッププログラム
岐阜刑務所薬物離脱指導参加

10月

- 3日 薬物電話相談日
- 6日 加茂保護区保護司会更生保護女性会にて講演
- 7日 各務原病院メッセージ
- 8日 ヨーガプログラム
- 10日 薬物電話相談日
- 11日 岐阜ダルク家族会
田瀬教会にて活動紹介
カトリック安城教会にて活動紹介
- 12日 FMらら(可児)出演
- 13日 笠松刑務所薬物離脱指導参加
ステップアッププログラム
岐阜ダルク後援会
- 14日 各務原病院メッセージ(ナチュラル)
薬物電話相談日
- 15日 土岐保護司会自主研修にて講話
- 16日 ステップアッププログラム
- 17日 コロナ社会での“より良いコミュニケーション”
の取り方講座参加
薬物電話相談日
- 18日 北方キリスト教会にて活動紹介
カトリック小牧教会にて活動紹介
- 20日 笠松刑務所薬物離脱指導参加
ステップアッププログラム
- 21日 もとす広域保護区保護司会研修会にて講演
- 22日 ヨーガプログラム
各務原病院メッセージ(ナチュラル)
- 23日 ステップアッププログラム
陶芸プログラム
- 24日 薬物電話相談日
- 25日 岐阜ダルク家族会
カトリック瀬戸教会にて活動紹介
- 26日 岐阜県相談支援事業連絡協議会岐阜ブロック学習会にて講演
- 27日 ステップアッププログラム
- 28日 各務原病院メッセージ(ナチュラル)
- 29日 岐阜県依存症地域支援連携会議参加
岐阜県精神保健福祉センター依存症に関する家族教室
- 30日 ステップアッププログラム
- 31日 フラワーセラピー

11月

- 1日 大垣サンライズチャペルにて活動紹介
カトリック津島教会にて活動紹介
- 4日 各務原病院メッセージ
- 5日 笠松刑務所薬物離脱指導参加
- 7日 薬物電話相談日
- 8日 各務原バプテスマ教会にて活動紹介
岐阜ダルク家族会
- 9日 南山高校(男子部)にて講演
- 10日 ステップアッププログラム
- 11日 岐阜公園で屋外ミーティングと金華山登山
薬物電話相談日
- 12日 ヨーガプログラム
各務原病院メッセージ(ナチュラル)
- 13日 ステップアッププログラム
- 14日 薬物電話相談日
ボランティア講師の指導による合唱練習
- 17日 ステップアッププログラム
- 18日 笠松刑務所薬物離脱指導参加
- 19日 岐阜ダルク後援会
- 20日 名古屋学院高校にて講演
東海地区自立準備ホーム勉強会参加
ステップアッププログラム
- 21日 自立準備ホーム前度10周年記念シンポジウム
参加
薬物電話相談日
- 22日 中学生ボランティア受け入れ
可児福音教会にて活動紹介
アガベチャーチ土岐チャペルにて活動紹介
- 24日 薬物依存症回復支援ネットワーク懇談会参加
ステップアッププログラム
- 26日 ヨーガプログラム
- 27日 ステップアッププログラム
陶芸プログラム
フラワーセラピー
- 28日 薬物電話相談日
- 29日 岐阜キリスト教会にて活動紹介
津島佐織キリスト教会にて活動紹介
- 30日 岐阜県教護師会にて講演

12月

- 2日 各務原病院メッセージ
- 3日 ニュースレター発送作業



10/6 加茂保護区保護司会更生保護女性会



加茂地区の保護司さんが集まる会で自身の薬物依存症の話をして頂きました。私の体験談が保護司さんを通じて他の薬物依存症者を救う切っ掛けになればうれしいです。(てっちゃん)

10/15 土岐保護司会自主研修



ダルクに来た頃はゾンビのようだった僕が、今ではシラフで生活できるようになり、さらにはその体験を保護司の方々に話す事で人の役に立つ事になるとは、自分でも本当に驚きの体験でした。(ラジオ)

10/21 もとす広域保護区保護司会研修会



保護司さんには、17才からずっとお世話になっています。でも保護司さんが「私達には何が出来るんだろう」と一生懸命考えてくれている事を知りませんでした。この事実を私と同じ依存症者に伝えたいです。(あやか)



各務原ダルクの開設準備



これから繋がってくる新しい仲間達の居場所作りが始まりました。僕たちの回復は、次の新しい仲間達に手渡していけないとその効果を維持することが出来ないって教えられました。こうして仲間を迎え入れる作業は依存症者の僕たちにとって必要不可欠なことなんです。現在、僕らが利用している施設も先人たちのそんな想いから成り立っているんだと思うと、この新しい施設の作業にも強い想いが入ります。こういう場面に立ち会うことが出来て、胸が熱くなりました。(てっちゃん)

10/25 岐阜ダルク家族会

毎月第2・第4日曜日午後2時から、岐阜少年鑑別所で家族会「STEPS」を開催しています。依存症拠点病院・各務原病院のケースワーカー澤木さんによる話や岐阜ダルクの仲間の体験談で、当事者の周囲の人がどうすれば良いのか学んでいただいています。必要な方は、お気軽にステップハウスまでお電話ください。(タロー)



11/22 中学生ボランティア受け入れ



今年も岐阜市の行くボランティア講座の中学生のみなさんが来てくれました。コロナの影響で掃除とミーティングだけとなりましたが、ミーティングでは自分のことを正直に話してくれました。依存症になるとその時から成長が止まると言われますが、みなさんの話を聞いて、仲間たちの子どもっぽさに改めて気づかされました(苦笑)4人のみなさん、ありがとうございます。(タロー)

合唱の様子(フェイスシールド着用)



仲間と合唱の練習をしています。皆の前で声を出して歌ったり、こうした方がいいと伝えるのは緊張するし、難しいと感じます。合唱の本を借りたり、サポートしてくれる仲間と一緒にどうやったら伝わるかを考えながら練習を進めています。(あらちゃん)

11/11 岐阜公園で屋外ミーティングと金華山登山



コロナの緊急事態宣言の影響で半年間延期になっていた金華山登山。僕が企画を担当させてもらいました。担当とはいっても、ほとんどの事が仲間のみんなに協力してもらったことで実現できました。当日は晴天で天気にも恵まれましたが、公園のベンチでやるミーティングは寒かったと評判でした(笑)登山の方は、途中険しい道があり危険を感じましたが、全員無事に下山できて何よりでした。仲間のみんなに「企画をしてくれてありがとう!楽しかった!」と感謝の言葉をいただき、嬉しかったです。良い経験と思い出になりました。感謝します。(ヨッチャン)

ダルク後援会だより

「親しき仲にも…」

岐阜ダルク後援会長：徳弘浩隆

先日、面白い看板を見つけました。「親しき仲にも 2メートル」と書かれています。思わず、写真を撮ってきました。もちろんこれは、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉をひねった言葉で、新型コロナウイルス蔓延防止の、いわゆる「三密防止」のための今風の標語なのでしょう。よく考えたなと思います。語呂もいいですね。「ソーシャル・ディスタンス」とかいうカタカナよりも、頭にもしっかり焼き付きました。



今年はとにかく、生きづらい年でしたね。いかがでしたか？もともと生きにくさを感じ、人との距離感をとるのが苦手な方も多いでしょう。私もすっかりブラジル慣れしてしまったので、「日本は人との距離感が難しいね」と妻と話すことがよくありました。教会の中ではまだよいのですが、一般の社会の中で、ついフレンドリーに（というか馴れ馴れしく）声をかけて変な顔をされてしまったり、相手が反応に困っているのを感じたこともあります。見ず知らずの人と会話が弾んで、ひと時とはいえ親しくなり、嬉しい時もありましたけれど。

心を割って本当に親しくなること、しかしその上でも礼儀をわきまえること、さらに、もっと一緒にいたくてもコロナのことを考えて距離を保つこと。いろいろな人生の修業をさせられているように思います。信頼、愛、和解、ゆるし、節度、自尊心…、色々なことを考えながら、今年を締めくくりましょう。やり残したことがあっても、まだ時間はあります。失敗をしても、まだやり直せます。ダルクの仲間たちと共に、学ばされています。

依存症入門講座

第5回「ワシントンアンとジョン・ゴー」

各務原病院 ソーシャルワーカー 澤木幾佐



1840年4月飲んだくれの集まりだった4人がワシントンアン全面断酒協会を会費制で設立した。最初の断酒の自助グループである。そこで行われていたことは毎晩集まりを持つだけだったが、やがて週に一度だけミーティングをすることになった。彼らは飲酒で手の震えているまだフレッシュな依存症者に自分の酒による失敗を話し、大勢の前で断酒の誓いの声明文にサインさせるといった方法を取っていた。ワシントンアンのメンバーらはパーにまで訪問し、酔っ払いにもその教えを伝えた。そうしているうちに、民衆のなかでミーティングが非常に人気になり、リンカーン大統領さえもその功績を認めるようになり、依存症患者やそうでない者も集まりをみせるようになった。創設1周年のパレードには5000人も人が参加し、うち1000人は改心した酔っ払いだった。1861年6月にはワシントンアン協会員は当初の4人から600人にまで膨れ上がっていた。

一方で依存症者の妻や当事者の女性や子どものグループも1841年に5月12日に立ち上がり、マーサワシントン協会とされた。マーサワシントン協会は女性が高い意識を持って生活するように促し、家から酒瓶を放り出すように伝えた。「全面断酒か、さもなくば夫なしか」とパレードの垂れ幕には記されていた。ワシントンアンは比較的裕福な白人が主で活動していたが、やがて黒人も自分たちのワシントンアングループを立ち上げて活動するようになった。

ワシントンアンはアメリカで多くの人々に情緒的な旋風を起こすようになった。なかでもジョン・ゴーは有名な話し手で、依存症から回復した者として初めて有給の仕事として各地を旅しながらグループを立ち上げることに取り組んでいた。ジョンは妻子を自分が飲んだくれていたうちに亡くしたという悲劇的な経験もあり、また、プレゼンテーション能力に長けていた。彼のメッセージはいつも満員でひとに満ちあふれていた。とにかく凄い人気だったのだ。彼は旅のなかで二度のスリップを経験し、一度は売春宿で目を覚ましたこともあった。ゴーの凄いところは包み隠さず徹底的に正直にその話を仲間に伝えることによって、再び酒から抜け出て仕事を続けたことでもあった。ゴーは舞台装置のなかで全身を使って強烈で事細かな体験談を伝えた。設立から15年程で母体となるワシントンアンが衰退した後も彼の情熱は変わらずに燃え続け、飲酒の問題を舞台に立て訴え続けた。彼は72万キロの旅をして、8600回以上の講演をした。そして、生涯現役を貫き、舞台の上で69歳で亡くなった。その一方で多くの影響を与えながらも最初の断酒グループであるワシントンアンはまるで打ち上げ花火のように継続しなかった。しかし、ワシントンアンの終結が後に多くの回復グループを生むことに繋がっていったのだ。

依存症の歴史を紐解くと、治療や法律、啓蒙活動や宗教活動等、様々な試みがなされていることが分かる。しかも、実績がないにも関わらず、似たようなことをして繰り返して失敗してといった、支援する側の問題も相当だと考えられる。伝統的なプログラムのあるAAの回復率は75%とかなり高い。このことをきちんと考えられる専門家はどのくらいいるのだろうか？依存症専門医でさえ、医療が依存症者の治療に手を出すとろくなことがないと言うひともあるぐらいである。確かに、医療側のやり方がころころ変わる。患者や家族は翻弄される。依存症者として、また、当事者職員として「えーっ」とびっくりするようなおかしな治療法で診療点数をもらい金を取っているご時世なのだ。気を付けたいものである。

ダルク まんが



(まんが執筆：ミラクル)

ご支援・ご協力をいただき心から御礼申し上げます

献金者名(令和2年8月29日～令和2年10月31日) 敬称略

田口大輔 木下容子 山野尚美 瀬田宏之 永嶋恵美 河口隆志 光楽英生 横井勝秀 (有)ユー・アイ・シー鶴飼武彦 勇昭代 原政子 加藤千冬 中西東峰 福村善光 小松康宏 同盟福音基督教会・岐阜キリスト教会 堀尾広広 河合潔 柴崎章子 金沢聖霊修道院 不破達生 日本福音ルーテル大垣教会 梅岡一哲 山下民男 さわやか法律事務所・代表社員・矢島潤一郎 山科正太郎 山田眞人 浅野香子 川口清子 日本福音ルーテル岐阜教会 奥石由起子 長谷川美智子 神谷法律事務所・弁護士・神谷慎一 更生保護法人・岐阜県更生保護事業協会 岐阜県保護司会連合会 北瀬美幸 弁護士・山本亮 武藤晏子 清水隆 大竹幸子 島原三 福田修 後藤雄三 北谷雅春 川西通子 小島浩一 浅野陽子 西洋子 家田重晴 澤田透 大矢知地区人権教育推進協議会 加茂地区更生保護女性会の皆様 加茂保護区保護司会の皆様 朝日大学・大野正博・宮坂果麻理 住田崇 千賀隆治 もとす広城保護区保護司会・更生保護女性会の皆様 岐阜市更生保護女性会・葛西美恵子 田瀬教会・若林治郎 所希代香 福島春美 鎌田恵子 岩田燕子 松阪美幸 西村牧子 齊藤栄子 三輪真由美 島田香 医療法人・岐阜勤労者医療協会・みどり病院 服部正博 今井扶美子 土岐保護区保護司会・山田直 魯慈忍 永尾ナミ子 岩井雄司 中西智子 河原仲友 土岐保護区保護司会・松本律子 後藤健次 高富グレイスチャペル・金森洋三 加茂地区更生保護女性会 新日本婦人の会・岐阜県本部 田代裕希勇 藤本弘 日比野裕子 養清興業株式会社 ムラマツヒロユキ 吉田正俊 高口光男 土岐地区更生保護女性会・木村恵美子 伊藤直美 角平聖一 古澤圭子 匿名者多数

活動紹介による献金(令和2年8月29日～令和2年10月31日)

カトリック宮教会の皆様 カトリック安城教会の皆様 カトリック小牧教会の皆様 北方キリスト教会の皆様 カトリック瀬戸教会の皆様

献品者名(令和2年8月29日～令和2年10月31日) 敬称略

鳥取ダルク 水野智文 澤田透 所希代香 三輪真由美 のわみ相談所 不破達生 サンリ治療院・院長・舟橋寛延 宮崎博子 古藤みづ子 水野智子 柳原清盛 木下容子 匿名者多数

※お名前の記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前の誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいたしますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

- 献品のお願い■ ●仲間が増えお米の消費がたくさんあり献品として、お米をいただくと助かります。
- 使わなくなった2段ベッドを探しています。大人が使う為できるだけ状態の良いものをいただける方ご連絡ください。 TEL.058-201-3555

岐阜ダルクへのご寄付をお願い申し上げます

岐阜ダルクでは施設の地代家賃、水道光熱費、専任スタッフの人員費等、毎月一定の固定費がかかる一方、「中間施設」の性格上、きわめて財務基盤が不安定で、皆様方のご寄付が欠かせません。引き続きご理解とお力添えをお願い申し上げます。

郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

各務原ダルク設立準備のご寄付のお願い

各務原ダルクの開設計画がスタートしました。開設のための資金、初期運営活動費などが不足しています。岐阜ダルクとは別に、振込用紙を同封させていただきました。どうかご理解とお力添えをいただければ幸いです。

郵便振替口座 00820-3-207230 女性ハウスを支える会

※通信欄に、「各務原ダルク」と分かるよう記載をお願いします。

※このニュースレターは、コープぎふ福祉活動助成基金からの助成を受けて作成しました。

経過報告

令和2年11月22日現在...各務原ダルクへの寄付金額

2,174,000円 集まりました!!

ご協力、誠にありがとうございます!

目標金額の320万円にはまだ達していませんが、
依存症で困っている女性のために開設を実現させるので
引き続き皆様からのご協力をお待ちしております。



編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 徳弘浩隆 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL.FAX: 058-201-3555
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://www.gifu-darc.org/>
ダルク日記『今日もぐるぐる』: <http://darcblog.sbio.jp/>

2020年 岐阜ダルクニュースレター令和2年冬号 (No.78)

定価 1部 200円編集責任者 達山 香
発行所 東海身体障がい者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター



岐阜ダルク日記